

経営比較分析表（平成30年度決算）

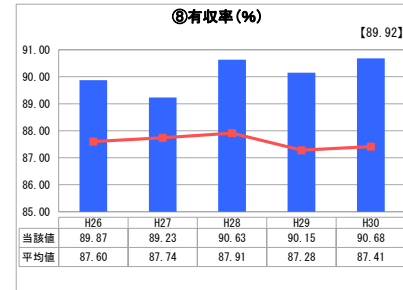
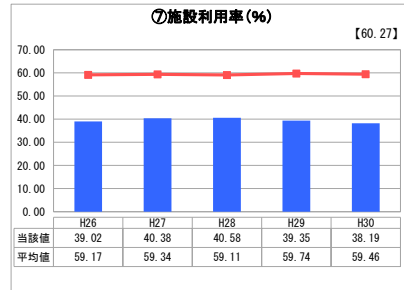
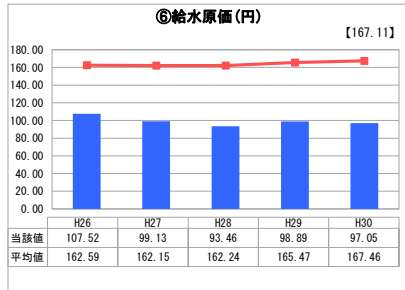
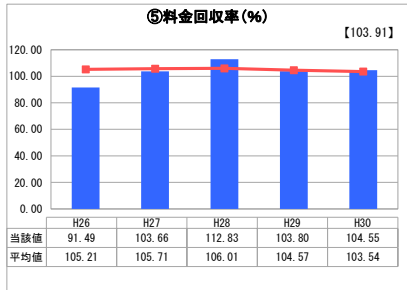
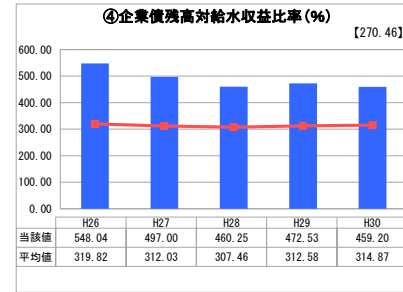
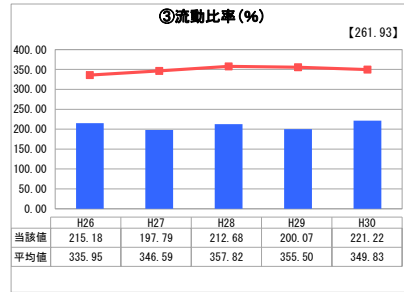
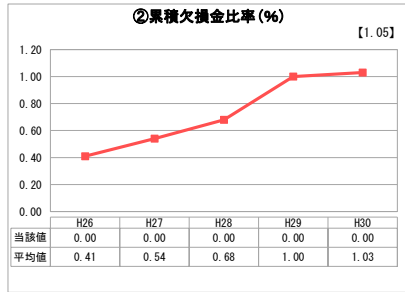
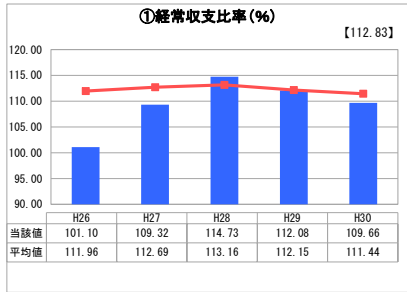
兵庫県 高砂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	57.03	100.00	1,436	

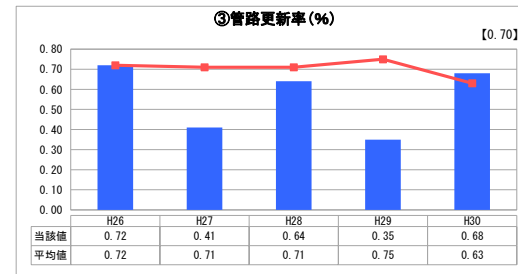
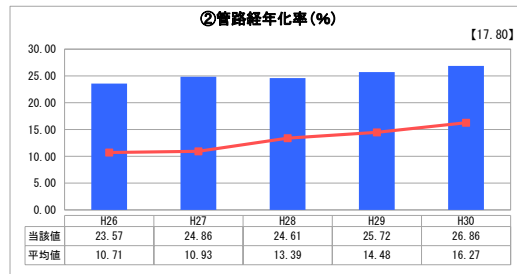
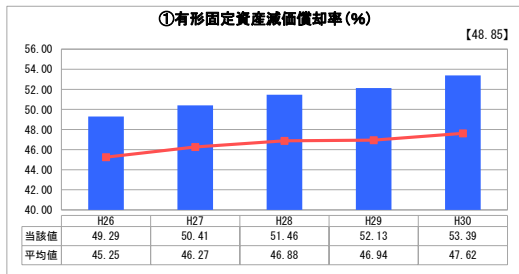
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
91,159	34.38	2,651.51
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
95,538	29.20	3,271.85

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度と比較すると経常収支比率が2.4%減少し、2年連続の減少となったが、132,816千円の純利益を計上し、良好な経営状況となっている。ただし、流動比率（短期的な債務に対する支払能力）や施設利用率の指標が類似団体平均より低い値となっている。流動比率は200%を超えており支払能力に問題は無く、施設利用率が低いのは、単一の浄水施設で運営しており、施設・設備の事業面での効率性が図りにくいためである。企業債残高対給水収益比率は、企業債残高は3億円減少したが、給水収益も減少したため比率は45.9%と類似団体平均より高く推移している。給水原価は類似団体平均より低い100円前後で良好に推移し、有収率も類似団体平均より高く、90%以上を維持している。

2. 老朽化の状況について

資産のうち送配水管については、管路経年化率と管路更新率の数値から明らかなように適正な更新ペースとなっていない。これは、高砂市が進める浸水対策事業等に併う受託工事を優先的に行っている事も影響している。

全体総括

収益的収支については、良好な経営状況であるが、施設や管路の老朽化対策を進めるためには財源の確保が課題となっている。平成30年3月に策定した高砂市水道事業ビジョンでは、平成30年度に米田水源再構築基本計画、令和元年度に送水管更新計画を策定し、老朽化対策の更新事業を推進することとし、施設利用率と管路経年化率の改善を図ることとしている。また、令和元年度に上下水道事業審議会を立ち上げ、令和2年度に有識者・市民の意見や投資計画を反映させた収支計画など中長期的な水道事業経営戦略の策定を予定している。